

シイタケ栽培地の微気象(II)

林業試験場九州支場 日高忠利
安藤正武

1 はじめに

前報¹⁾に引き続きシイタケ栽培に關与するほた場の水分環境を明らかにする目的で、当支場実験林内の林内ほた場および構内の人工ほた場における相対湿度について、日変化、季節変化などに関する比較検討を行なったのでその結果を報告する。

2 ほた場の概況および測定方法

ほた場の概況および百薬箱の設置については前報¹⁾に同じ。湿度の測定には7日巻毛髪式自記湿度計・検定付を使用し、毎週乾湿球湿度計により示度差の1/2を補正した。

3 測定結果および考察

1) 湿度の日変化：各月の時刻別の湿度の推移は年によって異なっているが、1978～1982年の平均でみると、林内ほた場、人工ほた場いずれも夜間は湿度が高く、午前8時頃下りはじめ、正午～午後4時の頃もっとも低くなり、午後5時頃から上りはじめて午後10時頃には高湿度に達するパターンを示した。人工ほた場は昼夜の較差が大きく、午前10時～午後4時の間は1年を通じて林内ほた場より低湿であった。月別にみると12月から翌年5月まで冬～春は、昼間は人工ほた場の方が低いが午後8時頃から翌朝7時頃までは林内ほた場より高くなり、ほた場の較差は昼夜いずれも少なかった。また、いずれのほた場も昼間は約50～60%まで下り、乾燥がいちぢるしかった。これに対して6月～10月夏～秋の間は1日を通じて昼夜とも人工ほた場の方が湿度が低かった。午前10時頃から午後4時頃まではほた場間の較差がいちぢるしく、林内ほた場は10月を除き約70%の湿度を保っていたのに

対し、人工ほた場は約50%まで下がり、昼間の乾燥がいちぢるしかった(図-1)。

2) 湿度の季節変化：1978～1982の各年における最高湿度(夜間)および最低湿度(昼間)の月別推移は図-2に示す通りで、各月の湿度、ほた場間の較差いずれも年によって異っていた。しかし1978～1982年の平均値でみると、最高湿度はいずれのほた場も四季を通じて80～90%であり、12月～5月は人工は

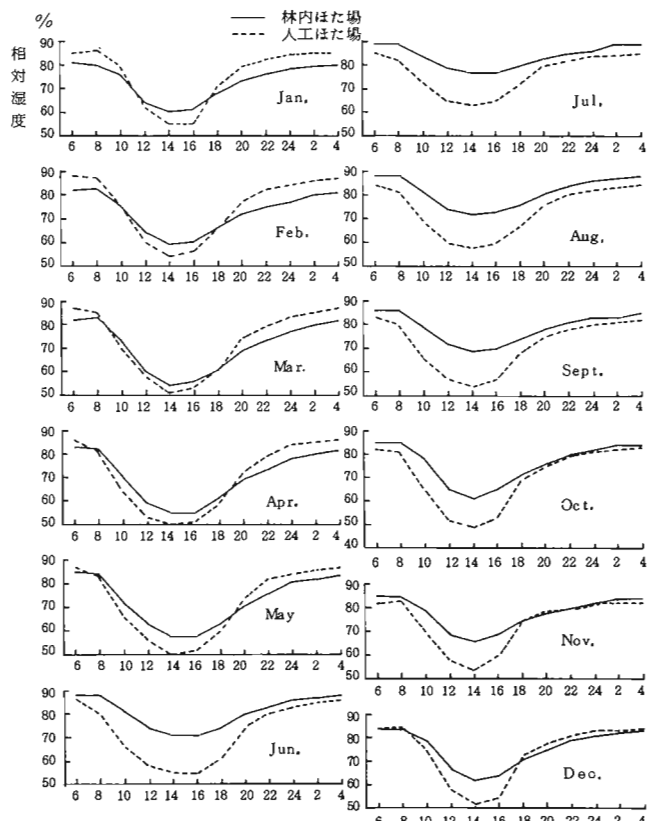


図-1 林業試験場九州支場ほた場の相対湿度の日変化(1978～1982の平均)

た場の方がやや高く、6月～11月は逆に林内はた場の方が高くなるがその差は僅少であった。これに対して最低湿度は月による変動がいちぢるしかった。1月～5月は50～60%と低くはた場間の較差も少ないが、6月には高くなり7月がもっとも高く大体9月まで高湿度の期間が続き、この期間ははた場間の較差が大きく、以後再び低湿の期間にもどるパターンを示した(図-3)。最高最低の平均湿度によるはた場間の比較では1～5月はほとんど較差がみとめられず6～12月は5～10%程度人工はた場の方が低いことを示した(図-4)。

4 おわりに

以上当支場の林内はた場および人工はた場における湿度の日変化および季節変動について明らかにした。今後は標高、方位、林相、施設などの異なる各種はた場について、微気象(雨量を含む)とはた付きや栽培成績との関係などの解明が必要と考えられ、研究を進めている。

引用文献

- (1) 日高忠利・安藤正武：日林九支研論 37, 255～256, 1984

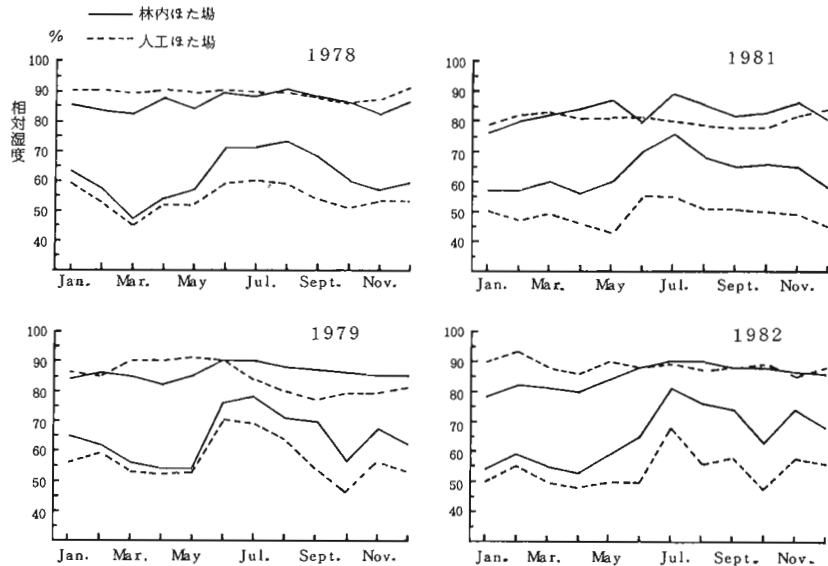


図-2 林業試験場九州支場はた場における各月の最高および最低湿度(相対湿度)

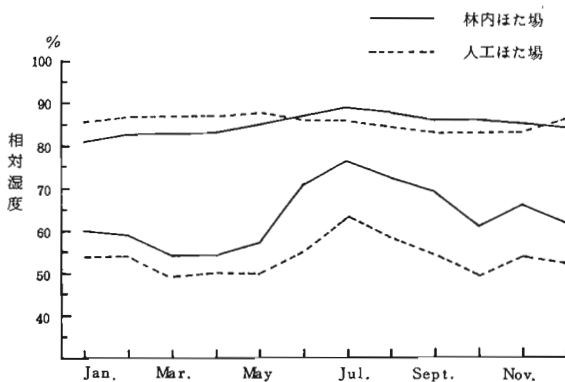


図-3 林業試験場九州支場はた場における各月の最高および最低湿度(1978～1982年の平均、相対湿度)

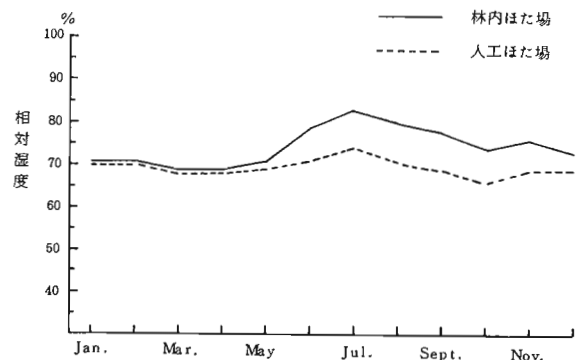


図-4 林業試験場九州支場における各月の平均湿度(最高・最低の平均、1978～1982年の平均、相対湿度)